

1968年オールスター サインボール

選ばれた選手が技を競い合うのがオールスターゲーム。大リーグでは一人の少年のベーブ・ルース選手(ヤンキース)とカール・ハッペル投手(ジャイアンツ)の対決を見たいという投書がきっかけになったといわれ、シカゴ・トリビューン紙のアーチ・ワード記者の尽力により1933年に始まりました。一方、日本のオールスターゲームのルーツは、1937年に大阪朝日新聞の運動部にいた芥田武夫氏(元早大外野手、近鉄監督、1988年野球殿堂入り)が企画した東西対抗オールスターにあります。当時は1リーグ制だったので、チームを東西に分けて対戦しました。ちょうど60年前の1950年に2リーグ制がスタートしましたが、この年はセ・パ共にそれぞれで東西対抗を行い、翌1951年から現在のようなセ・パ両リーグ対抗のオールスターゲームが始まりました。

写真は1968年オールスター出場選手のサインボールです。今回ドリームマッチでドリームチームの監督を務めた柴田勲氏は、この年の第2戦で本塁打と三塁打を放ち殊勲選手に選ばれています。

